

南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書(3)

南種子町農免農道整備事業 田代地区及び野大野地区に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

野 大 野 A 遺 跡
上 瀬 田 A 遺 跡

1991年3月

鹿児島県熊毛郡南種子町教育委員会

序 文

南種子町教育委員会では、県営農免農道整備事業に伴い、事業区内の上瀬田A遺跡、野大野A遺跡の発掘調査を国及び県の助成を得て平成2年6月25日から平成3年3月30日にかけて実施いたしました。

この調査報告書をもとに、多くの方々が埋蔵文化財の保護に対する理解を深めていただくとともに、広くご活用されることを願っております。

発掘調査報告書の発刊にあたり、文化庁、鹿児島県教育委員会文化課、調査担当者、調査指導者をはじめ作業員、土地所有者の方々に深く感謝申し上げます。

平成3年3月

南種子町教育委員会

教育長 川 田 孝 雄

例 言

1. この報告書は農免農道整備事業（田代地区）と農免農道整備事業（野大野地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 確認調査は国及び県の補助を受け、南種子町教育委員会が実施した。
3. 本書で用いたレベル数値はすべて海拔絶対高である。
4. 遺物はすべて通し番号とし、挿図・図版とも一致する。
5. 発掘調査の図面・写真撮影は新東・堂込でおこない、遺物の実測・トレース・写真撮影は堂込が行った。
6. 本書の執筆・編集は堂込が行った。

本文目次

序文	
例言	
第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至るまでの経過	1
第2節 調査の組織	1
第3節 調査の経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	3
第3章 野大野A遺跡の調査	8
第1節 調査の概要	8
第2節 遺構	12
第3節 遺物	12
第4章 上瀬田A遺跡の調査	39
第5章 まとめ	40

表目次

第1表 周辺遺跡地名表(1)	5
第2表 周辺遺跡地名表(2)	6
第3表 野大野A遺跡出土土器観察表(1)	35
第4表 野大野A遺跡出土土器観察表(2)	36
第5表 野大野A遺跡出土土器観察表(3)	37
第6表 野大野A遺跡出土石器計測表(1)	37

挿 図 目 次

第1図	遺跡の位置と周辺遺跡	4
第2図	遺跡周辺の地形図	7
第3図	土層柱状図	8
第4図	野大野A遺跡発掘地点・グリッド図	9
第5図	野大野A遺跡，遺物出土状況	10
第6図	1号土坑平面図・断面図	13
第7図	1号土坑遺物出土状況	14
第8図	2号土坑平面図・断面図	15
第9図	出土土器（1）—口縁部	17
第10図	出土土器（2）—口縁部	18
第11図	出土土器（3）—口縁部	19
第12図	出土土器（4）—口縁部	20
第13図	出土土器（5）—口縁部	21
第14図	出土土器（6）—口縁部	22
第15図	出土土器（7）—口縁部	23
第16図	出土土器（8）—口縁部	24
第17図	出土土器（9）—口縁部	25
第18図	出土土器（10）—胴部	26
第19図	出土土器（11）—胴部	27
第20図	出土土器（12）—胴部	28
第21図	出土土器（13）—胴部・底部	29
第22図	出土土器（14）—底部	30
第23図	出土石器（1）	31
第24図	出土石器（2）	32
第25図	出土石器（3）	33
第26図	出土石器（4）	34
第27図	上瀬田A遺跡トレンチ配置図	38
第28図	上瀬田A遺跡トレンチ土層図	39

図 版 目 次

図版 1	野大野 A 遺跡 1 トレンチ・1 トレンチ遺物出土状況・表土剥ぎ・遺物出土状況 発掘作業風景・2 号土坑遺物出土状況・2 号土坑断面	42
図版 2	野大野 A 遺跡 1 号土坑集石及び土・1 号土坑掘り上がり	43
図版 3	野大野 A 遺跡 1 号土坑埋土状況・遺物出土状況・土層堆積状況 出土土器 (1~39)	44
図版 4	野大野 A 遺跡出土土器 (40~91)	45
図版 5	野大野 A 遺跡出土土器 (86・92~143)	46
図版 6	野大野 A 遺跡出土土器 (144~188)	47
図版 7	野大野 A 遺跡出土土器 (189~193)・出土石器 (194~223)	48
図版 8	野大野 A 遺跡出土土器・文様分類例・内面調整例	49
図版 9	野大野 A 遺跡出土土器内面調整例	50
図版 10	上瀬田 A 遺跡発掘作業風景・土層	51

第 1 章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

鹿児島県教育委員会（以下県文化課）では、県下の市町村教育委員会と連携し、文化財の保存・活用を図るため、各開発機関との間で、事業区域内における文化財の有無及びその取り扱いについて事前に協議し、諸開発との調整を図っている。

この事前協議制に基づき、鹿児島県農政部農地建設課（熊毛支庁）は、南種子町内において「農免農道整備事業（田代地区）」及び「農免農道整備事業（野大野地区）」を計画し、事業地域内の埋蔵文化財の有無について県文化課に照会した。

これを受けて、昭和63年4月に田代地区を、平成元年5月に野大野地区の埋蔵文化財分布調査を県文化課及び南種子町教育委員会と合同で実施した。分布調査の結果、当該事業区域内に土器片等が散布していることを確認したため、文化財の保存と事業の推進との調整に資することを目的として、確認調査を実施することとなった。

発掘調査は、国及び県の助成を得て南種子町教育委員会が調査主体となり、発掘調査及び報告書作成は県文化課に依頼した。

第2節 調査の組織

調査主体者	南種子町教育委員会		
調査責任者	＊	教 育 長	川 田 孝 雄
調 査 事 務	＊	社会教育課長	古 市 正 志
	＊	体育文化係長	立 石 靖 夫
	＊	主 事	日 高 孝 之
	＊	主 事 補	古 田 美 紀
調査担当者	鹿児島県教育庁文化課	主 査	新 東 晃 一
	＊	文化財研究員	堂 込 秀 人
調査指導者	鹿児島県文化財保護審議委員		河 口 貞 徳

なお、調査企画においては、鹿児島県教育庁文化課長吉井浩一、同課長補佐濱松巖、同主幹立園多賀生、同主任文化財研究員兼埋蔵文化財係長吉元正幸、同主幹兼企画助成係長濱崎琢也、関係の各氏の指導・助言を得た。

第3節 調査の経過

発掘調査は平成2年6月25日（月）から7月6日（金）までの期間行った。上瀬田A遺跡の調査を6月25日（月）から6月27日（水）の3日間おこない、残りは野大野A遺跡の調査を行った。野大野A遺跡については、周辺一帯が遺跡地であり、また設計変更も不可能で、破壊される部分について調査した。以下日誌抄により調査の経過を略述する。

日誌抄

- 6月25日(月) 発掘用具運搬。オリエンテーション後に、1トレンチ・2トレンチ(2×3m)を設定し、掘り下げる。表土除去後にアカホヤ層がわずかに残存しており、両トレンチともにアカホヤ層から上位は、畑地造成によって削られているものと判断された。
- 26日(火) 1トレンチ、2トレンチともに、アカホヤ層から下は褐色粘質土層・暗褐色粘質土層・褐色粘質土層の順で堆積し、その下に礫層がある。遺物・遺構ともに検出しなかった。現道沿いの、断面の観察できる部分に(調査城の南端と北端)、幅2mほど2ヶ所で堆積状況を確認する。調査城の南側において、アカホヤ層の上の黒色土層が残っており、断面に土器片があったため、3トレンチを設定して、包含層を掘り下げる。
- 27日(水) 3トレンチからも断面部分にあった土器片以外に遺物の出土はなかった。午前中で上瀬田A遺跡の確認調査を終了し、午後から野大野A遺跡へ移動する。周辺に土器片が広く分布するため、1×40mの第1トレンチを設定し掘り下げる。表土を除去し、遺物包含層を確認する。
- 28日(木) 第1トレンチ掘り下げ。遺物は縄文時代後期の一濠式の土器片で、単純層を形成している。遺物取り上げ。遺構検出作業を行う。
- 29日(金) 遺物散布域の一段上がった畑地に、第2トレンチ(3×3m)を設定する。この畑地は、個人により重機で、畑地造成が行われており、アカホヤ層上位の包含層はなかった。引き続きアカホヤ層の下についての掘り下げを行う。第1トレンチの周辺については、包含層の確認と現地踏査の結果、遺跡はあたり一帯に広がるものと判断できたため、現地で熊毛支庁・町教育委員会などと協議し各担当本課と連絡のうえ、道路内について面調査を実施することとなった。
- 30日(土) 第1トレンチの土層堆積状況をもとに、重機によって表土剥ぎを行う。
- 7月2日(月) 第2トレンチ終了。面調査部分は、残土整理後包含層を掘り下げる。
- 3日(火) グリッド設定。包含層掘り下げ、遺構検出作業を行う。1号土坑、2号土坑を検出。検出状況写真撮影後、掘り下げる。2号土坑については、実測後遺物を取り上げる。
- 4日(水) 遺物取り上げ作業。西側部分についてはほぼアカホヤ上面まで掘り下げ、包含層はA-1・2・3区を残すだけとなったため、南側部分に幅50cmで約30mの長さで、下層確認のトレンチを設定し掘り下げる。1号土坑実測・写真撮影。
- 5日(木) A-1・2・3区の掘り下げ、遺物取り上げを行う。下層確認トレンチからは、遺物・遺構は検出されなかった。
- 6日(金) 遺物取り上げ。土層断面の実測を行い、調査は本日で終了する。
- 7日(土) 重機によって埋めもどしを行う。

第2章 遺跡の位置と環境

野大野A遺跡・上瀬田A遺跡は鹿児島県熊毛郡南種子町に所在する。

南種子町は九州島の南方海上にある種子島にあり、種子島は北から西之表市・中種子町・南種子町と3分される。南種子町は三方を海に囲まれ、美しい海岸線を有し、その南端は鉄砲伝来で有名な門倉岬であり、南東海岸にはわが国の宇宙開発の前線基地である種子島宇宙センターがある。また東海岸には、多くの埋葬人骨と、その副葬品として大量の貝輪・貝符などの貝製品が出土した広田遺跡(19)が知られている。南種子町の遺跡分布をみると、縄文時代の早い時期には、田代遺跡(5)・小牧遺跡(16)・長谷遺跡(21)・赤石牟田遺跡(22)などのように内陸部に立地し、縄文時代の後期以降は本遺跡を含めて海岸段丘上に、弥生時代では本村塚の塚遺跡(9)・本村丸田遺跡(10)・本村宇都遺跡(11)・浜田遺跡(20)・広田遺跡(19)などの沖積地・砂丘にも展開している。また宝満神社では赤米栽培習俗が残存している。赤米栽培については、はやくから民俗学研究者に注目され、いろいろな検討がなされている。考古学的には稲作の系統論から論議されてきた。下に参考文献をあげたが、かつては島内全域に赤米があったこと、「南方」の稲作技術の一部らしいこと、など稲作文化を考えるうえで興味深い成果が発表されている。付近は郡川・宮瀬川などの広い沖積地となっており、弥生文化が流入した際も、稲作の適地であったことは想像に難くない。あるいはそれ以前に、別の系統で稲作技術が流入したにしろ、同様である。歴史時代の遺跡としては、本村丸田遺跡(10)が昭和60年に発掘調査されている。平安時代の建物跡などが発掘されている。歴史時代も弥生時代に引き続いて、郡川・宮瀬川などの広い沖積地を生産基盤としていたものと考えられる。

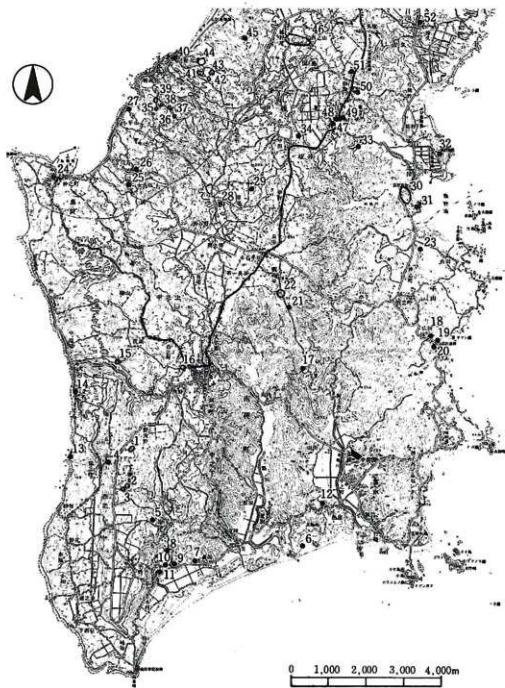
今回、調査した野大野A遺跡と上瀬田A遺跡は、従来から知られていた野大野遺跡・上瀬田遺跡と若干位置が異なり、農免農道の拡幅・新設に伴う分布調査の結果発見されたものである。「鹿児島県遺跡地名表 1985」で野大野遺跡とされている付近は、「南種子町郷土誌」では上瀬田遺跡とされており、混同されている。共に縄文時代後期の指宿式土器・市来式土器の土器片と敲石などが出土している。周囲一帯が遺跡地で、表採資料が多いことが混同の原因と考えられる。遺跡は海岸段丘上の標高170~190mの台地上にあり、東側に台地と平行して南流する鹿鳴川へ、小さい谷が幾つも落ち込んでいる。この小さい谷の谷頭に遺跡が立地する。台地上はかなりの起伏があり、小さい谷筋が入り、その自然の起伏を個人で重機等によって畑地として造成している。上瀬田A遺跡の南側には谷を挟んで上瀬田B遺跡が、野大野A遺跡と上瀬田A遺跡との中間の台地西側には上瀬田遺跡が立地する。このほかにも谷頭部分や緩丘地などに多くの遺跡が存在するものと考えられる。

柳田国男『海上の遺』、『定本柳田国男集』第1巻 築摩書房 1970

下野敏見『種子島の民俗』、法政大学出版局 1982

波部忠世『宝満神社の赤米と踏耕』『卑人世界の島々』海と列島文化3 小学館 1990

坪井洋文『稲作文化の多元性—赤米の民俗と儀礼』『日本民俗文化体系4 風土と文化』 1986



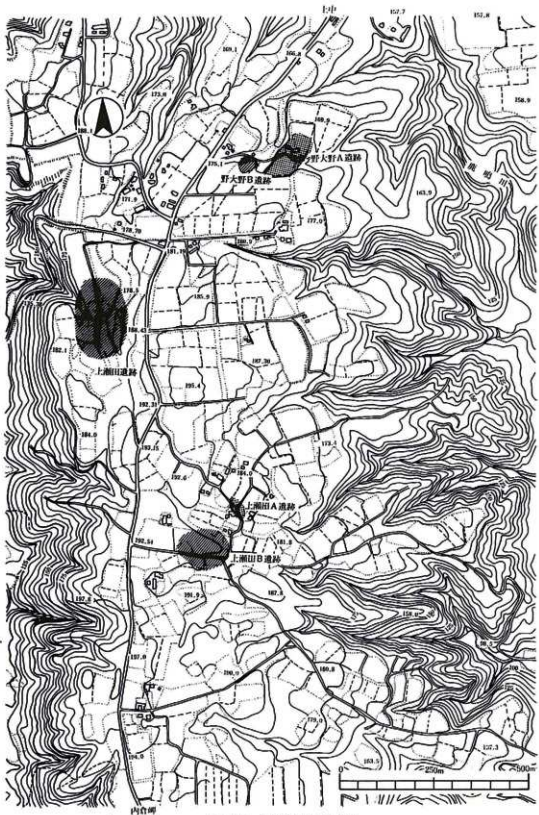
第1圖 遺跡の位置と周辺遺跡

第1表 周辺遺跡地名表

No	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
1	野大野 A	中之下野大野	台地	縄文	土器片	平成元年度分布調査
2	上瀬田 A	中之下上瀬田	台地	縄文	土器片	昭和63年 分布調査
3	上瀬田 B	中之下上瀬田	台地	縄文	土器片	*
4	上瀬田	西之	台地	縄(後)	市来式土器, 磨製石斧 敲石	
5	田代	西之	台地	縄(前)	塞ノ神式土器	
6	一障長崎鼻貝塚	中之下	砂丘	縄(晩)	土器(黒川式)磨製石斧 骨製裝飾り, 骨鏃, 貝 輪, 人魚骨, 貝類	
7	野口	中之下真所				(県)昭42. 3.31 考古資料
8	田代化石	西之田代				(町)昭56. 4. 1 (地質, 鉱物)
9	本村塚の塚	西之本村塚の塚	斜面地	弥(後)	弥生式土器片	
10	本村丸田	西之本村丸田	畑	弥(後)	弥生式土器片	
11	本村宇都	西之本村宇都	斜面地	弥(後)	弥生式土器	
12	松原	菓永松原	台地	弥(後)	*	
13	砂取孫左エ門の 礎 壘	西之管造牧				(町)昭55. 3. 7 (史跡)
14	枕状燧石	西之上立石				(町)昭56. 1. 1 (記念物)
15	平六間伏	中ノ上平六間伏	台地	縄文	土器片, 石斧	昭62年発掘調査
16	小牧	中ノ上小牧	台地	縄(早)	塞ノ神式, 磨石	*
17	上里城跡	菓永上里	台地			中世城館跡 (昭58 原文化課調査)
18	広田石塔祭	平山広田				(町)昭47. 3.31 (史跡)
19	広田	平山広田	砂丘	弥(中) (後)	弥生式土器, 人骨100体 余, 貝製品, 紡錘車, 石鏃, 鉄製釣針, 砥骨 具類	埋蔵址考古学雑誌43巻3 号, 日本考古学協会発表 (24回総会), 福岡医学 雑誌52巻8号, 種子島民 俗神集7号広田の民俗
20	岩穴	平山広田				(町)昭47. 3.31 (史跡)
21	長谷	長谷	台地	縄(早)	吉田式土器	
22	赤石牟田	長谷赤石牟田	台地	縄(前)	曾畑式, 塞ノ神式土器 打製石鏃, 黒曜石破片	
23	浜田	平山浜田嵐	平地	弥(中)	弥生式土器片(須玖式)	
24	田尾	島間田尾	台地	縄(後)	市来式土器, 磨製石斧 ナリ石敲石, 石皿	
25	大塚山のヤッコ草 及び石塔	島間大久留目				(町)昭56. 1. 1 (植物・史跡)
26	上妻城跡	島間向方	台地			中世城館跡 (昭58県文化 課調査)
27	貫門	島間樋子泊				(町)昭47. 3.31 (史跡)
28	長谷	坂井長谷	台地		土器片, 塞ノ神式	平成元年度分布調査

第2表 周辺遺跡地名表

No	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
29	原 尾	坂井, 原尾 国ノ峯	台地	縄(後) 弥(後)	凹線土器, 指宿式土器 市来式土器, 磨製石斧 凹石, 敲石, 石皿, 弥 生式土器	
30	メヒルギ, ハマジ ンチョウの自生地	坂井 片白				(町) 昭55. 8. 1
31	塩屋阿 獄	坂井 塩屋片白		弥(前)	弥生式土器(板付Ⅰ, 板 付Ⅱ, 城ノ越Ⅳ, 城の 越Ⅴ) 打製石斧, 凹石 骨錐, 牙錐, 貝輪(敲 骨, 烏骨, 魚骨)	(町) 昭57. 2. 8
32	ヤッコウソウ の自生地	坂井-熊野山6030				(町) 昭57. 2. 8
33	本 村	坂井 本村	沖積地 水田	弥(後)	弥生式土器片	
34	中 田	坂井, 中田, 堤	斜面地	縄(後) 弥(後)	骨細式, 市来式土器, 磨製石錐, 弥生式土器 磨製石錐	
35	小 牧 野 B	坂井小牧野	台地	縄 文	土器片	昭61年分布調査
36	折 坂	坂井折坂	台地	縄 文	土器片	昭61, 平成元年分布調査
37	白 木 野	坂井白木野	台地	縄 文	土器片	。
38	小 牧 野 A	坂井小牧野	台地	縄 文	土器片	昭61年分布調査
39	小 牧 野 C	坂井小牧野	台地	縄(前)	縄式石皿	昭63年確認調査
40	屋久津貝塚	坂井, 屋久津 西小牟礼	斜面地	弥(後)	弥生式土器片, 貝殼敲 骨, 魚骨	
41	宮 田	坂井宮田	台地	縄 文	春日式, 磨製石斧, 印石	昭63年確認調査
42	平 松 A	坂井 平松	台地	縄 文	土器片	昭61, 平成元年分布調査
43	平 松 B	坂井 平松	台地	縄(後)	土器片, 磨製石斧	昭63年確認調査
44	鷹 取	坂井 鷹取	台地	縄(後)	指宿式, 松山式, 市来式 磨製石斧打製石斧印石	昭63年確認調査
45	菅 浜 貝 塚	坂井屋久津 菅浜川	川床	縄(前)	菅浜式土器打製石斧, 打製石錐, 敲骨, 魚骨 貝類	(町) 昭55. 3. 26
46	輪 之 尾	田島, 輪之尾 獄之山頭 他	台地	縄(前)	壺ノ神式土器, 砥石, 磨製石斧, 柱状石斧, 磨製石錐, 完形弥生式土器	開場整備 (昭42)
47	日良法印墓地跡	坂井, 大園3354				(町) 昭58. 1. 1
48	矢 止 石	坂井, 大園3391				(町) 昭55. 3. 26
49	坂井神社の蘇鉄	坂井, 切才畑3577				(町) 昭57. 2. 8
50	日良法印御墓所	田島, 久保306-7				(町) 昭58.10. 1
51	田 島	田島, 中大町	平地	縄(前)	壺ノ神式土器, 骨細式 土器	開場整備 (昭56)
52	向 町	油久, 向町	平地		指宿式, 市来式, 一渡 式土器, 磨製石器, 打 製石斧, 石皿, 凹石	



第2図 遺跡周辺の地形図

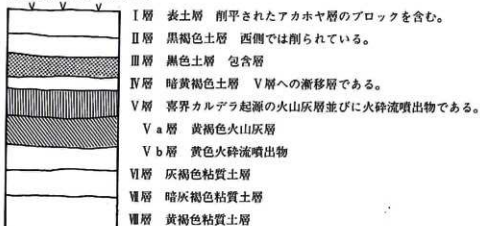
第 3 章 野大野 A 遺跡の調査

第 1 節 調査の概要 (第 4 図)

農免農道整備事業の路線に沿っておこなわれた分布調査によると、一湊式の土器片を、民家に近接し東側から入り込む谷の谷頭にあたる畑から表採している。さらに 2 m 50 cm 程高くなる一段上の畑を挟んで、西側からの谷筋にあたる 5 m 程下がった畑から石鏝を表採した。一帯は東西両側から小さな谷が入り込む微高地となっており、民家を囲んで、土器片の散布が見られる。聞き取り調査によると、いずれも個人で重機を入れて、畑地造成を行ったとのことであった。そこで、道路の路線に基づいて、表面に観察される土質を考慮しながら、一湊式の土器片が多く表出している畑に 1×40 m の第 1 トレンチを設定し、最も高い畑に 3×3 m の第 2 トレンチを設定した。この結果、第 1 トレンチに包含層が確認され、上の畑については、造成で削平された部分と、その土で谷を埋土した部分からなり、包含層はなかった。石鏝を採集した畑は、大きく段落ちし、谷を埋めて造成してあり、路線も削平部分を通っていたため、調査区から除外した。第 1 トレンチを設定した畑と、ほぼ同じ標高に当たる、東側の民家周辺一帯が遺跡地であり、路線変更は不可能であった。そこで協議の結果、第 1 トレンチを掘り、破壊される部分について記録保存のための調査を実施した。

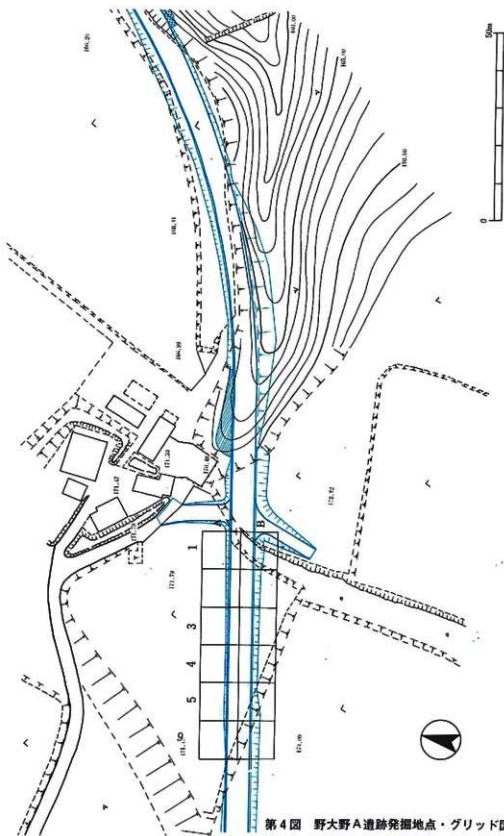
既に入収してある路線内で、路線のセンター杭を A 区・B 区の境界の基準線として、北から A・B 区、東側から 1・2・3……区とグリッドを設定した。包含層は谷に向かって傾斜しており、発掘区の西側と南側では造成時に削平されている。

土層は次のとおりである。

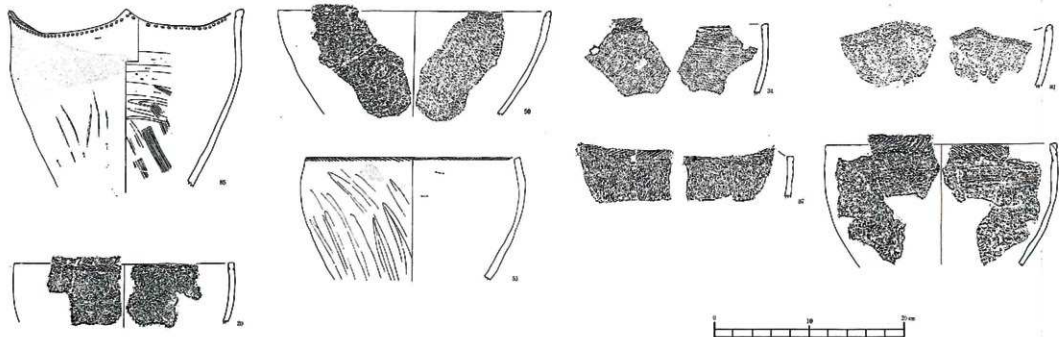
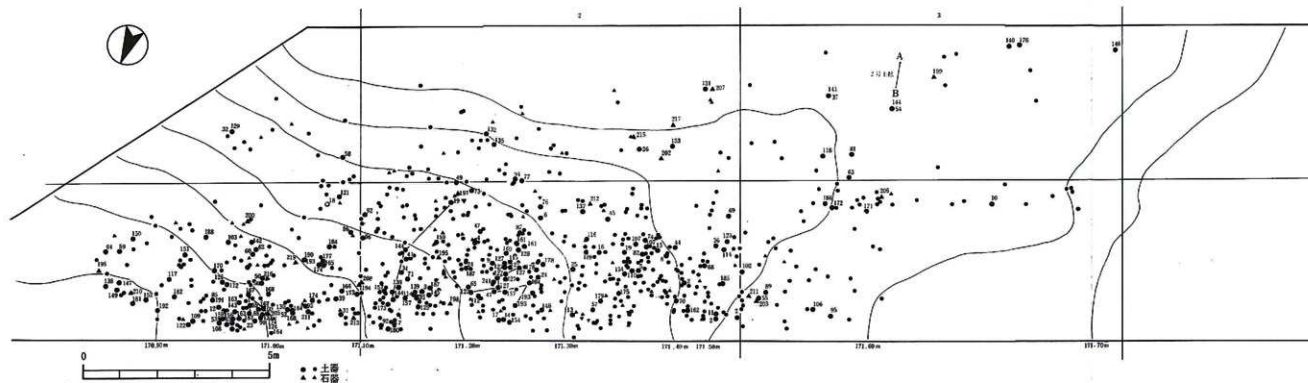


第 3 図 土層柱状図 II 層途中までを重機によって剥ぎ取り、以下遺物・遺構の検出作業を行った。III 層の黒色土が包含層にあたり、谷に向かって厚さが増している。遺構の最終検出面は V 層上面とした。

遺構として、2 次加熱をうけた磨石・石皿の集石をもつ Pit (1 号土城)、土器の完形品を伴う Pit (2 号土城)、その他不明 Pit を検出した。遺物は一湊式の土器片・磨石・石皿が出土し、



第4図 野大野A遺跡発掘地点・グリッド図



第5図 野大野A遺跡、遺物出土状況

出土状況はA-1・2・3区に集中している。V層（アカホヤ）上面まで全面を掘り下ががら、V層下の縄文時代早期の遺物・遺構の確認のため、包含層が削平され薄い南側に、幅50cmでB-1区から長さ15m、間を2mあけてさらに13mの約30mに及ぶトレンチを設定した。V層以下からは遺物、遺構ともに検出されなかった。

第2節 遺構（第6図～第8図）

1号土坑（第6図・第7図）

V層上面に、磨石・石皿などの破損品が集積された土坑を検出した。集積された石に達するまでは、Ⅲ層と同じ埋土が一樣に堆積しており、中央ベルトの断面観察では堆積状況は把握できなかった。周囲には埋土と同じくするPitがP1～P11まであり、P10とP11を除いて土坑を囲んでいる。集積された石は、209・214・220を除いて明確に加熱された痕跡が残っている。磨石・石皿として図示したものの他の石についても、加熱されて表面が剥落し作業面が不明ではあるが、形状と破損面の観察から石皿・台石として使用されたものの破損品である可能性が高い。土坑の壁面・底部に関しては、加熱された痕跡はなかった。209についてはP5に伴う可能性もある。土坑からは一湊式土器の口縁部（1）が出土・共存しており、一湊式の時期の遺構である。Pitは柱穴と考えられる。現状で深いものをあげると、P1・P3・P4・P5・P8となる。しかし検出状況が、包含層であるⅢ層が殆ど無く、Ⅳ層の堆積が薄い場所であり、掘り込み面と異なり上部を削られていることも考えられ、土坑・Pitともに、深かった可能性がある。これらを考慮して、資料の増加をまって、上層構造を考えたい。

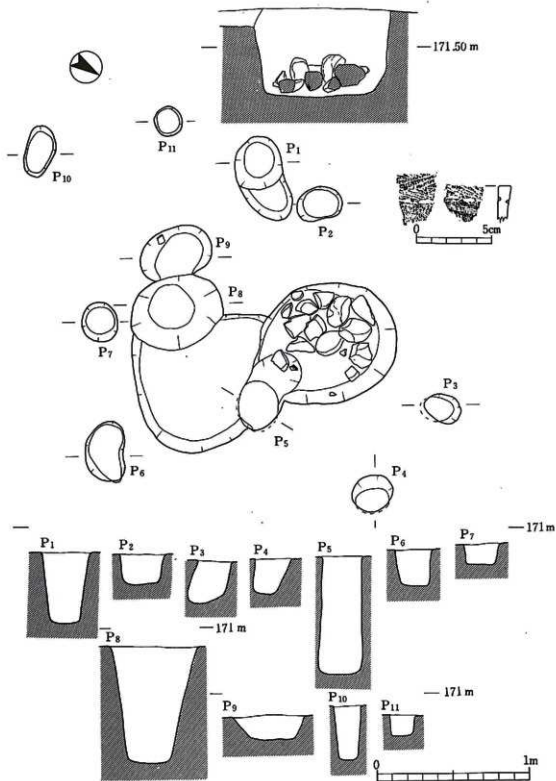
2号土坑（第8図）

Ⅲ層掘り下げ中に、土器の比較的大きな破片（51・86）が出土したため、周辺で遺構検出をしたところ、土坑を検出した。Ⅳ層に掘り込まれていて、土坑の掘り込み面は削ってしまった。埋土はⅢ層の黒色土層で軟らかい。長円形のプランで、中央に凹みを有する。土器は、2個体分で、土坑の床面から浮いた状況で出土した。平口縁と波状口縁の土器が共存することを示している。性格等については不明である。

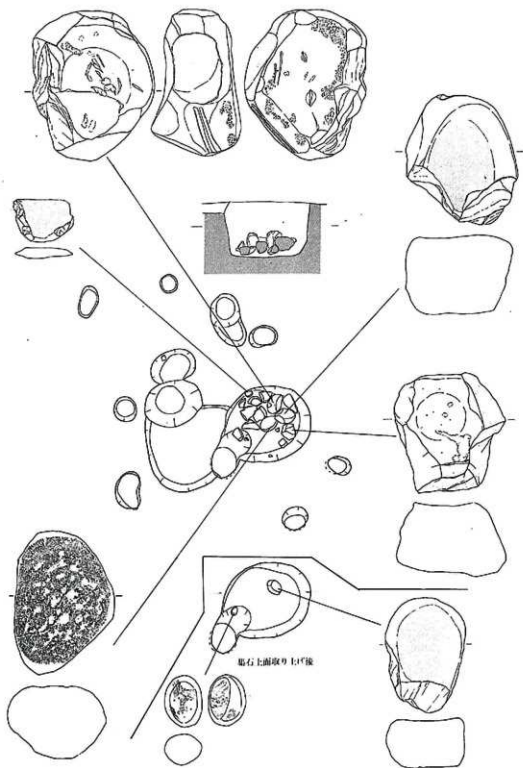
第3節 遺物（第9図～第26図）

土器（第9図～第22図）

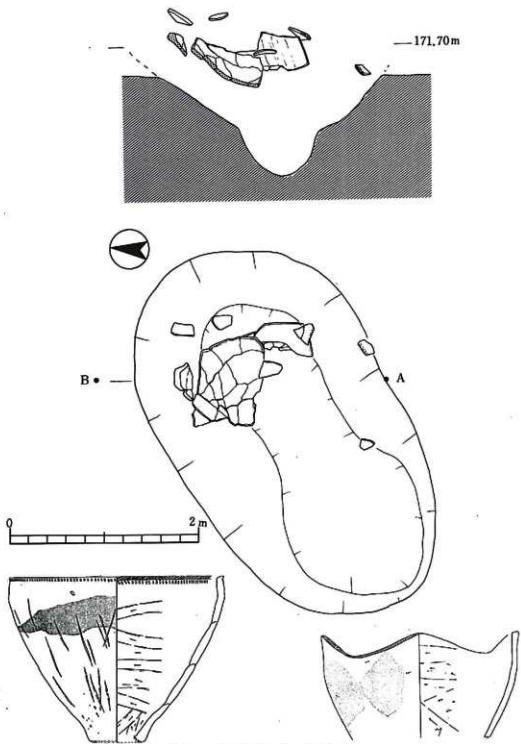
土器は有文・無文のものが出土したが、有文のものはほとんどが一湊式である。一湊式は口縁部に文様が集中するため、型式で明確に提示できるのは1～98・124～126であるが、図示していないものも含めて、一湊式の口縁部の出土量が他の口縁部に比べて圧倒的に多く、胴部・底部共に殆どが一湊式と判断できる。一湊式の胎土は、石英・長石・金雲母・砂礫を含むが、出土した土器片はすべての胎土がこれに共通している。色調は、赤褐色～黒褐色を呈し、外面が黒褐色で内面が暗赤褐色というものが一般的である。口縁形態は平口縁（1～67）と波状口縁（68～98）の2形態ある。器形は平口縁のものが、口縁部が内湾気味に立ち上がり、最大径



第6图 1号土城平面图·断面图



第7图 1号土坑遺物出土狀況



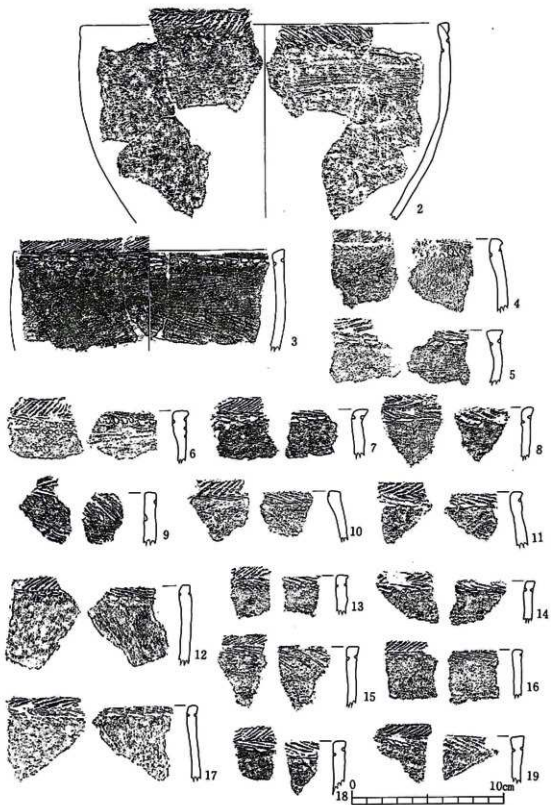
第8图 2号土坑平面图·断面图

は口縁より下がったところになる。胴部は直線的に底部に至るものと(50・51)、丸みを帯びてボール形になっているものがある(52・53)。器高が胴径より小さく、浅鉢形となる(51・53)。波状口縁のものは、口縁部が直立するか、やや外反気味に立ち上がり、器高が胴形より大きく、深鉢形となる傾向があると判断される(85)。底部はやや上げ底気味の平底で、径と立ち上がりの違いは器種によるものと考えられる。器種が口縁形態によって若干違っても判断される。調整は、口縁端はヨコナデしているが、以下の部分は内外面ともに工具によってナデられている。おもに外面は縦方向に、内面は横方向にナデられている。「ナデ」が、工具の違い・調整時の力の違いによって、いわゆる条痕とかケズリの調整を見ていることも考えられるが、ここでは平滑に仕上げようとしているものを「ナデ」としてあつかった。調整具はヘラ状のものと、条痕で木目(「ハケ目」)を呈しているものが多いことから木口・木片を使用したものと考えられる。文様は口縁部に限られ、斜沈線・刺突文を施す。施文はヘラ状のものがほとんどで、円形の刺突具が使われているものもある。一漉式の型式設定上の文様の要素であった貝殻は、施文にも調整にもまったく使われていない。文様は口縁端の上面・内外面に斜沈線があり、刺突文が明確なものと(1~7・68~73)、内外面の斜沈線が、粗く直線状になったり、連続刺突文が横方向に間延びして、直線状になったりしたもの(8~50・74~84)、内外面の沈線をいずれかの面で欠くもの、あるいは刺突文を欠くものに分けられる(51~67・85~98)。沈線を欠くものは、刺突文が明瞭である。順にa類・b類・c類と仮称しておく。a類・b類・c類で文様以外の差異は、特にc類において、外面縦方向の工具ナデが丁寧で、ヘラミガキ様を呈していることにある。また、内側においても、条痕がa類・b類に比較して、顕著でない。波状口縁のものも、平口縁のものもいずれも、「ふきこぼれ」の痕跡と考えられる炭化物が外面に付着したのが見られることから、機能的に使い分けがなされたものではないだろう。また胴部にも下半部に加熱をうけて、器面が剥落しているものも多いので、煮沸用に使われたことが伺われる。

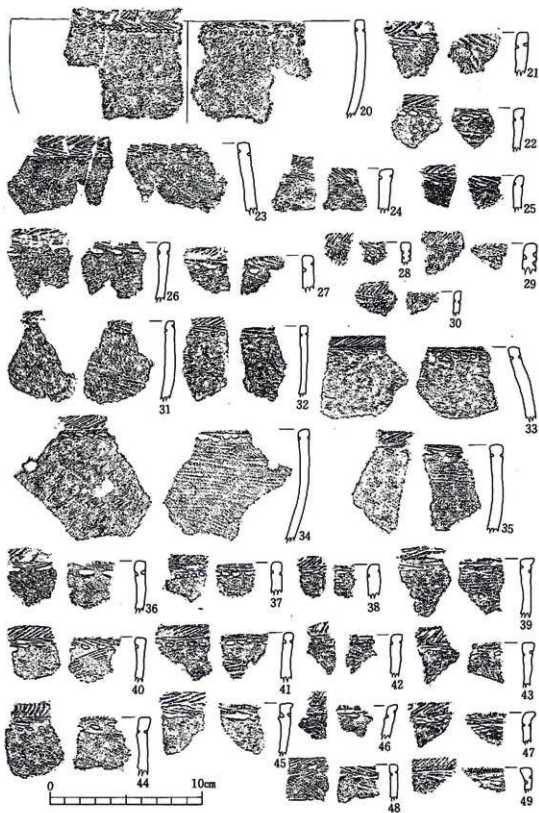
99~101は断面三角形の口縁部をなし、外面に沈線で文様を施す。この形態の土器片は、全出土遺物の中でこの3点だけである。102~123は無文の土器の口縁部で、胎土・調整は一漉式と同様である。口縁端部に面をつくるものが多く、概して口径が小さく小型鉢形土器といえる。124~126は胴部で、斜沈線・刺突文をもつものである。126は器種が断定できないが、124・125は、鉢形土器の胴部であろう。胴部は殆どが文様をもたない中で、例外的である。

127~174は胴部の破片である。量的には膨大であったが、調整痕の見えるものを中心に掲載した。胎土・調整は、口縁部と同様である。173・174は、胎土に金雲母を含まず、内面が平滑であり、移入品の可能性もある。173は屈曲部をもち、174は外反していく。胎土・色調は両者ともよく似ている。175~193は底部である。さほど厚くなく、一度まっすぐに立ち上がって、外反していくもの(175~184・193)と、屈曲しないもの(185~192)がある。191を除けば、すべてあげ底気味の底部である。

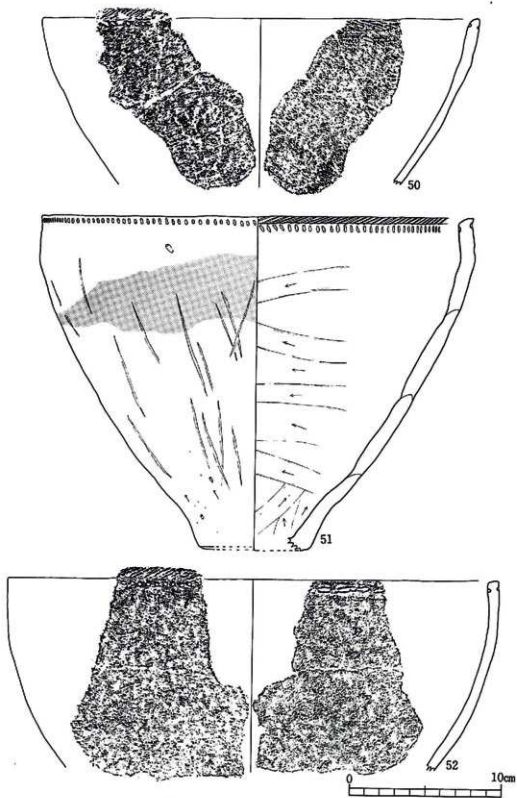
個別の土器についての説明は、観察表に替える。



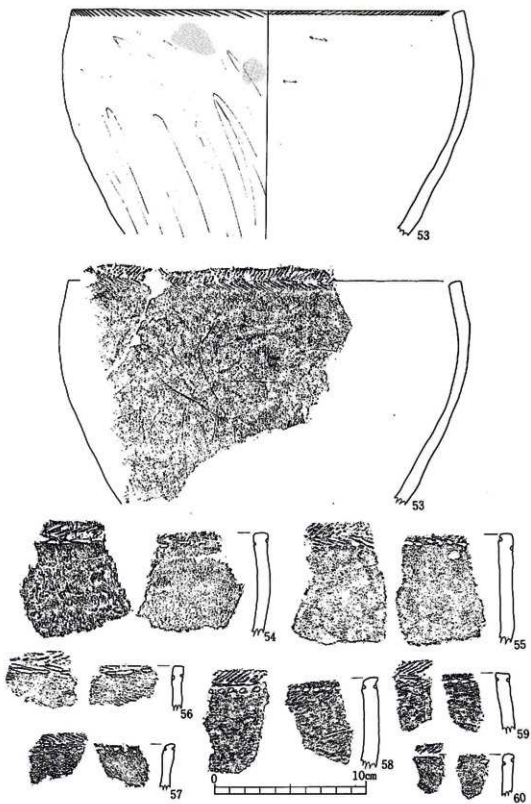
第9圖 出土土器(1) 一口縁部



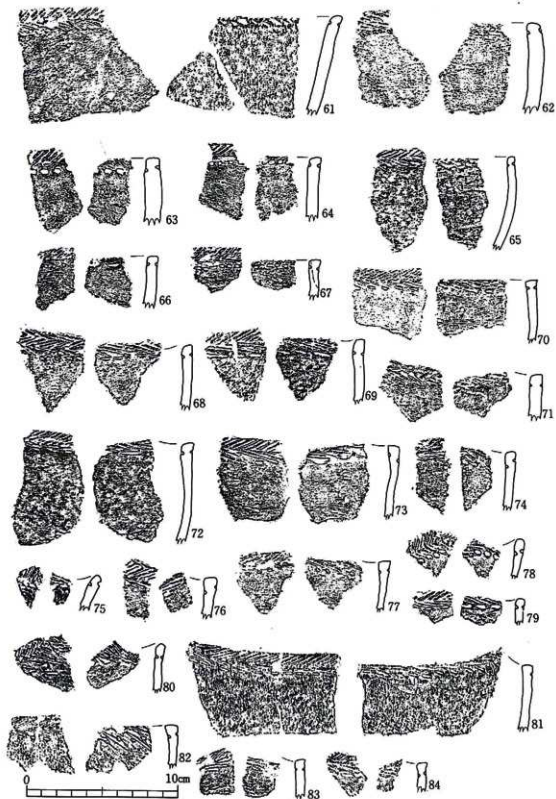
第10圖 出土土器(2) —口緣部



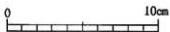
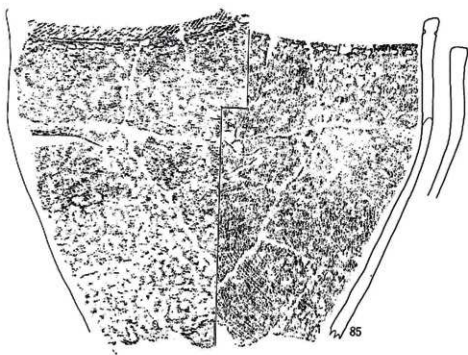
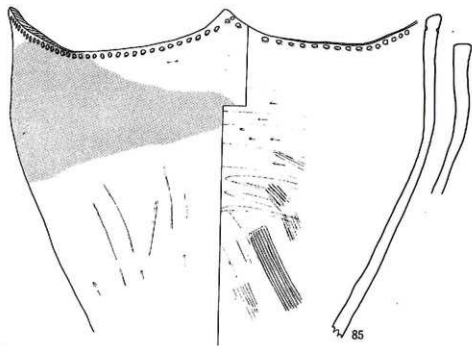
第11圖. 出土土器(3) - 口縁部



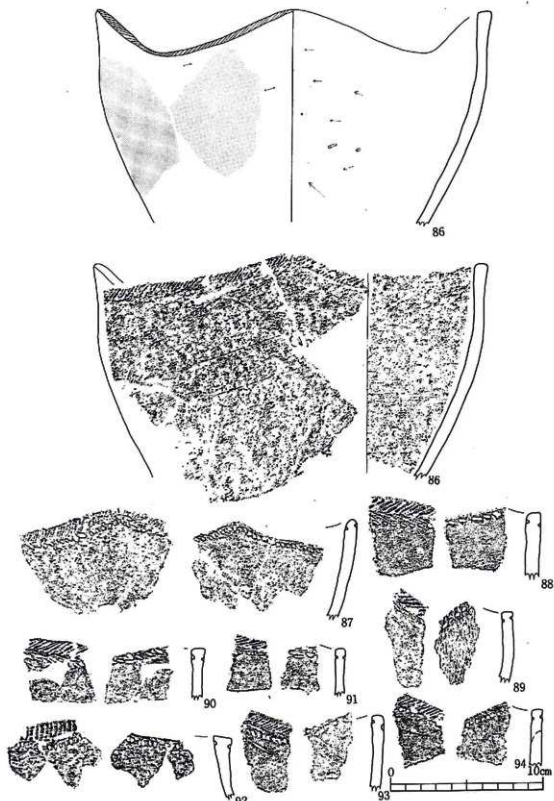
第12圖 出土土器(4) 一口縁部



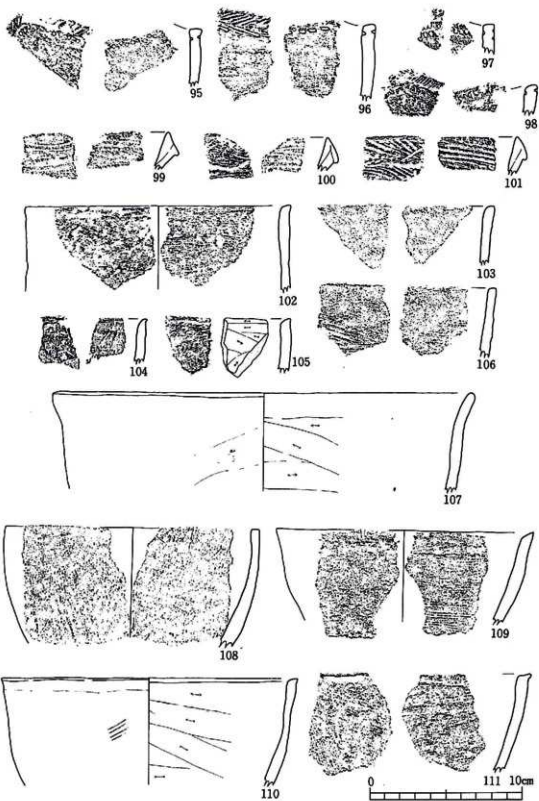
第13圖 出土土器(5)一口縁部



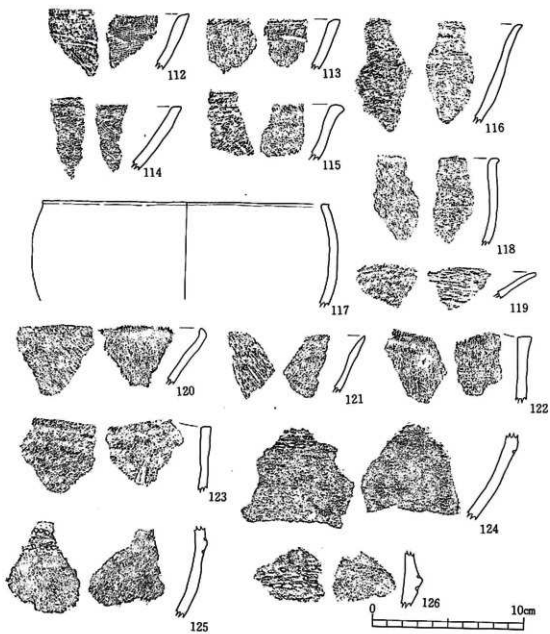
第14図 出土土器(6) 一口縁部



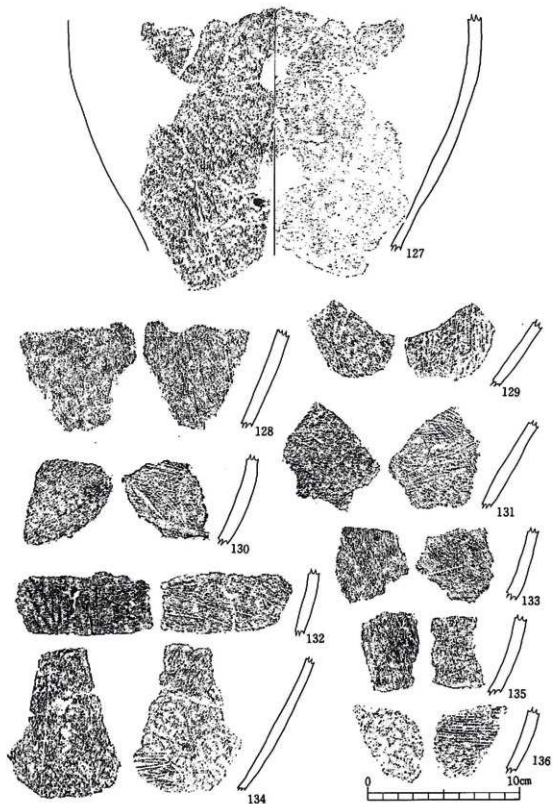
第15圖 出土土器(7) - 口緣部



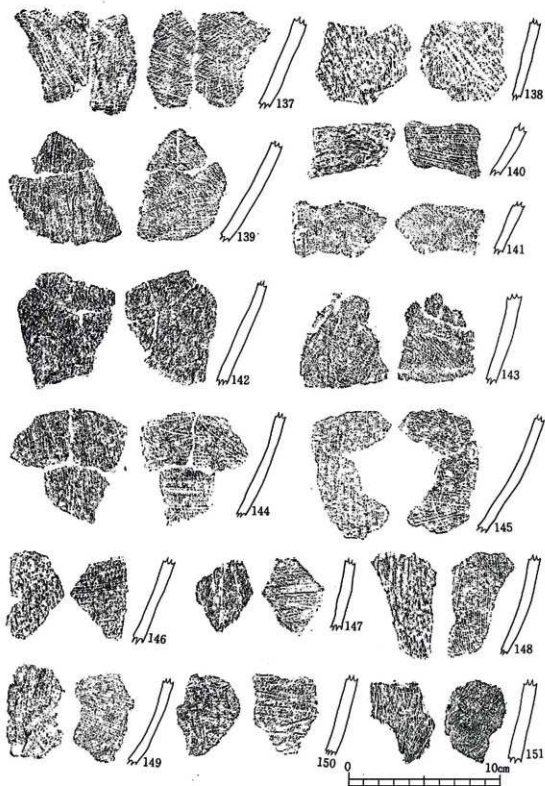
第16圖 出土土器(8) 一口縁部



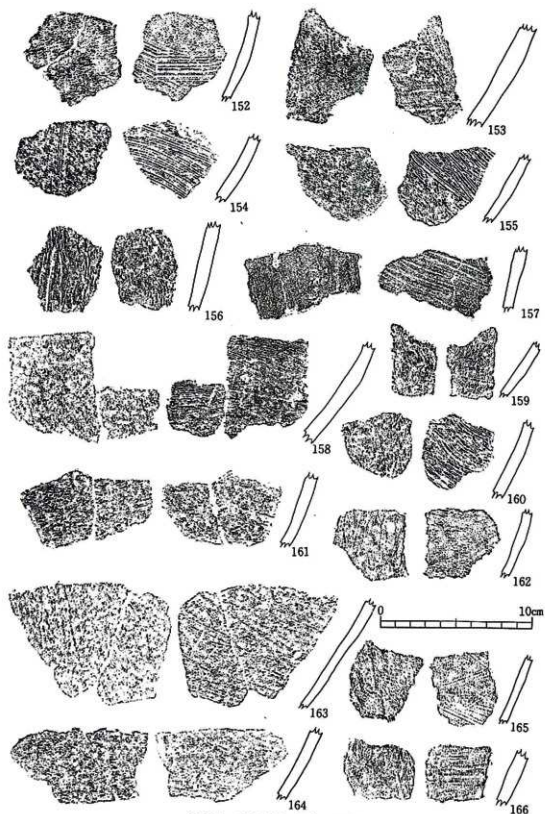
第17圖 出土土器(9) 一口緣部



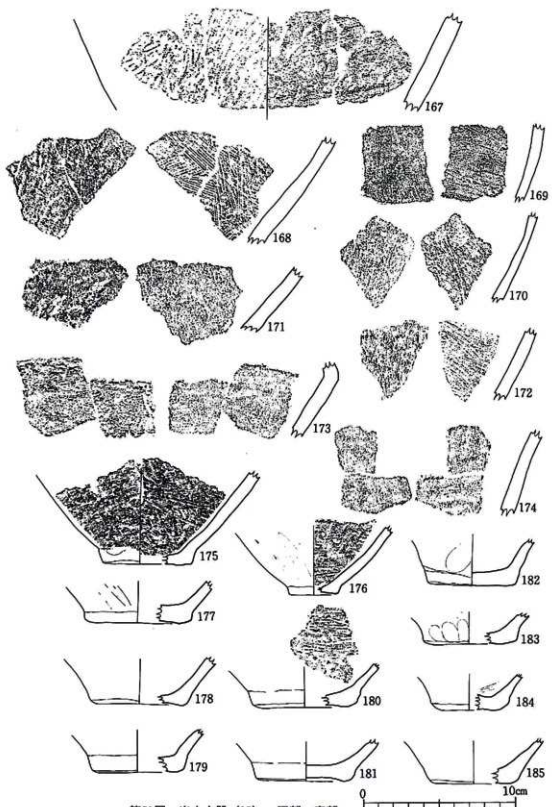
第18图 出土土器 (10) - 胴部



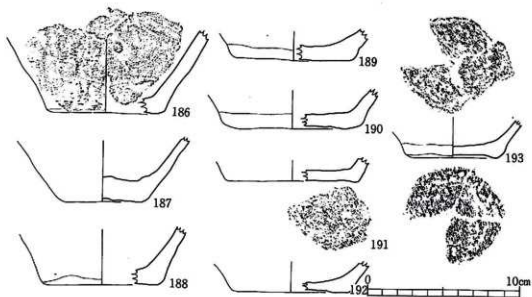
第19图 . 出土土器 (11) 一胸部



第20圖 出土土器 (12) - 胴部



第21圖 出土土器 (13) 一胴部・底部

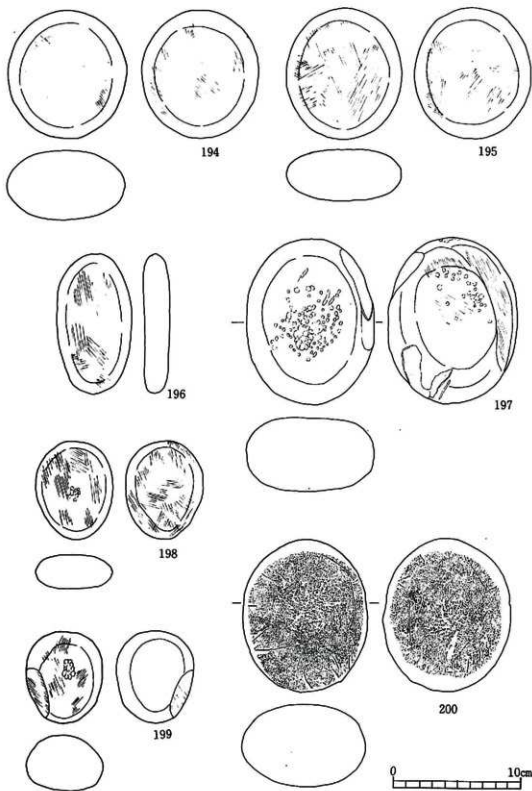


第22図 出土土器(14)一底部

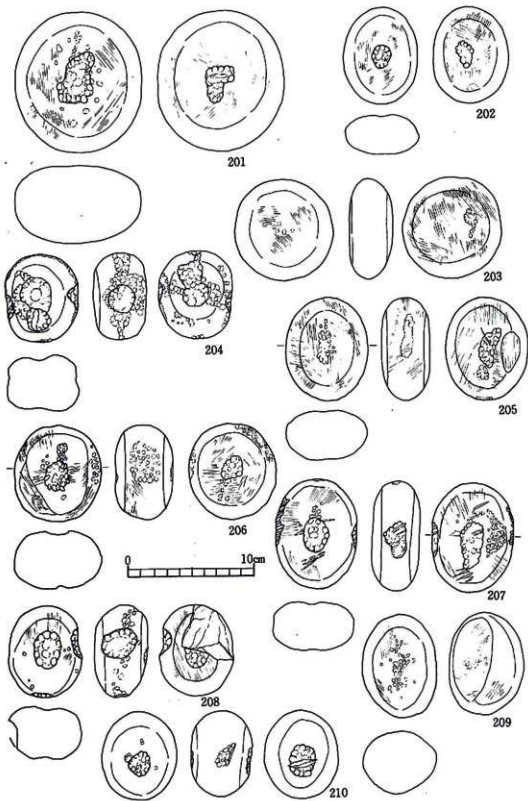
石器 (第23図～第26図)

石器は、磨石・敲石が多く出土した。器種は、磨石(194～209)・敲石(197～213)・凹石(204～212)・石皿(214～222)などで、石皿は完形品の出土はなかった。磨石・敲石は併用したものが多く、凹石も同様である。敲石の敲打痕は、石の表面が円形に小さく剥落しているものが多かったが、対象物が違うためか細長く三日月状に剥落しているものもあった(200・207)。223は、円礫の片面に径2～3cmのくぼみが、蜂の巣状に穿ってあるものである。

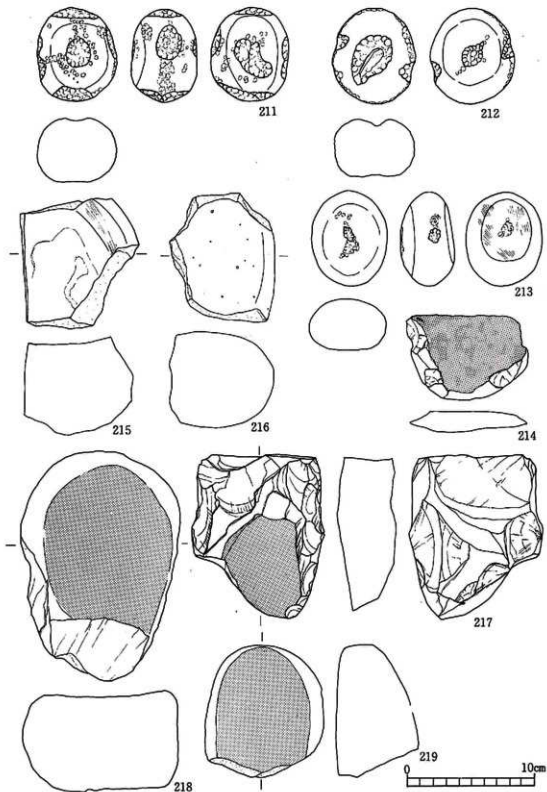
石材等は、計測表に詳しい。



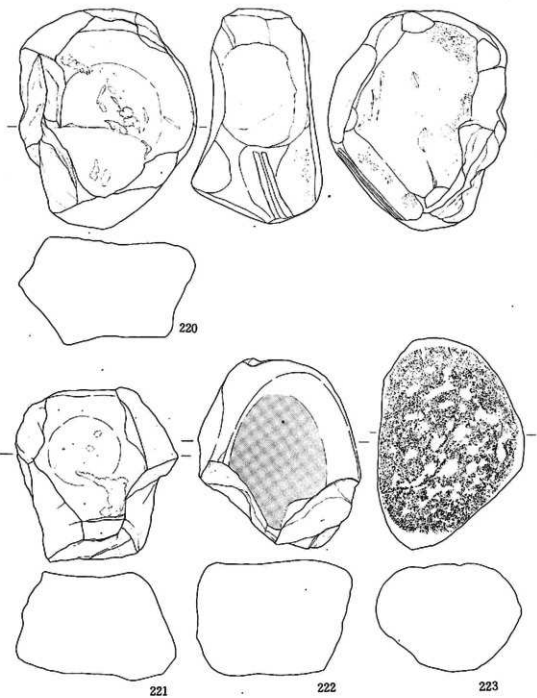
第23図 出土石器 (1)



第24图 出土石器(2)



第25図 出土石器 (3)



第26圖 出土石器（4）

第3表 野大野A遺跡出土土器観察表(1)

図号	遺物番号	土器名	口縁形状	色	文	様	外面装型	内面装型	備考	
第4区	1	1号土	平	黒褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ヨコナデ・工具ナデ(ナナ)	無装(ヨコ)			
	2	A-2	*	黒褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ヨコナデ・工具ナデ(ナナ)	無装(ヨコ)		表面はハナ目様	
	3	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ヨコナデ・工具ナデ(ナナ)	無装(ヨコ)			表面はハナ目様・ふきこぼれ痕	
	4	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ヨコナデ・工具ナデ(ナナ)	ナデ・工具ナデ(ヨコ)			ふきこぼれ痕	
第5区	5	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ヨコナデ・ナデ	工具ナデ(ヨコ)				
	6	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ヨコナデ	ヨコナデ・工具ナデ(ヨコ)				
	7	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ・工具ナデ(ヨコ)	ナデ・工具ナデ(ヨコ)				
	8	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ・工具ナデ(ヨコ)	ナデ				
	9	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ヨコナデ・工具ナデ(ヨコ)	ヨコナデ・工具ナデ(ヨコ)				
	10	A-2	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ヨコナデ・工具ナデ(ヨコ)	ヨコナデ・工具ナデ(ヨコ)			ふきこぼれ痕
	11	A-2	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ヨコナデ・工具ナデ(ヨコ)	ヨコナデ・工具ナデ(ヨコ)			
	12	A-1	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ヨコナデ・工具ナデ(ナナ)	ヨコナデ・工具ナデ(ナナ)			ふきこぼれ痕
	13	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ	ナデ				
第6区	14	A-2	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ	ナデ・工具ナデ(ヨコ)			
	15	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ヨコナデ・工具ナデ(ヨコ)	ヨコナデ・工具ナデ(ヨコ)				
	16	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ヨコナデ・工具ナデ(ナナ)	ヨコナデ・無装(ヨコ)				
	17	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ヨコナデ・ヘラ1号(ナナ)	ヨコナデ・工具ナデ(ヨコ)				
	18	A-1	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ	ヨコナデ・工具ナデ(ヨコ)			
	19	A-2	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ	ナデ			ふきこぼれ痕
	20	A-1	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ヨコナデ・不明	ヨコナデ・工具ナデ(ヨコ)			表面平様
	21	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ	ナデ・工具ナデ(ヨコ)				
	22	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ	ナデ				
	23	A-1	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ・ヘラ1号(ナナ)	ナデ・工具ナデ(ヨコ)			
第7区	24	A-2	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ	ナデ・工具ナデ(ヨコ)			
	25	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ヨコナデ・工具ナデ	ヨコナデ				
	26	B-2	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ヨコナデ・工具ナデ(ナナ)	ナデ・工具ナデ(ヨコ)		ふきこぼれ痕	
	27	A-1	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ	ナデ・工具ナデ(ヨコ)			
	28	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突(2号)	不明	不明				
	29	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突(2号)	不明	不明				
	30	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ	ナデ				
	31	A-1	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ	ナデ・無装(ヨコ)ナデ(ナナ)			
	32	B-1	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ・工具ナデ(ナナ)	ナデ・工具ナデ(ヨコ)			
	33	A-1	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ	工具ナデ(ヨコ)		表面は1号目様	
第8区	34	A-2	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ヨコナデ・工具ナデ(ナナ)	ヨコナデ・無装(ヨコ)		ふきこぼれ痕・穿孔	
	35	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ・工具ナデ(ナナ)	ヨコナデ・工具ナデ(ヨコ)				
	36	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ヨコナデ	ヨコナデ				
	37	B-3	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ	ナデ			
	38	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ	ナデ				
	39	A-1	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ・工具ナデ(ナナ)	ナデ・工具ナデ(ヨコ)		ふきこぼれ痕	
	40	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	不明	ナデ・無装(ヨコ)			ハナ目様	
	41	A-2	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	無文用ナデ・ヘラナデ(ナナ)	ナデ・ヘラ用(ヨコ)		ふきこぼれ痕	
	42	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ	ナデ・ヘラ1号(ヨコ)			ふきこぼれ痕	
	43	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ヨコナデ・工具ナデ(ナナ)	ヨコナデ				
第9区	44	A-2	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ・工具ナデ(ナナ)	ナデ・無装(ヨコ)		ふきこぼれ痕	
	45	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ヨコナデ・工具ナデ(ナナ)	ヨコナデ				
	46	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ	ナデ				
	47	A-2	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ・工具ナデ(ナナ)	ナデ・工具ナデ(ヨコ)			
	48	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ・工具用	ナデ				
	49	B-2	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ	ナデ			
	50	A-1	*	赤褐色	羽状線(上・内・外), 連続刺突	ナデ・工具ナデ(ナナ)	工具ナデ(ヨコ)		ふきこぼれ痕	
	51	2号土	*	赤褐色	羽状線(上), 連続刺突	ナデ・工具ナデ(ナナ)	ナデ・工具ナデ(ヨコ)		ふきこぼれ痕	
	52	A-1	*	赤褐色	羽状線(上), 連続刺突	ヨコナデ・工具ナデ(ナナ)	ヨコナデ・了事(ナナ)ナデ(ヨコ)			
	第10区	53	*	赤褐色	羽状線(上)	ナデ・工具ナデ(ナナ)	ナデ・工具ナデ(ヨコ)			ふきこぼれ痕
54		B-3	*	赤褐色	羽状線(上), 連続刺突	ナデ・工具ナデ(ナナ)	ナデ・工具ナデ(ヨコ)		ふきこぼれ痕	
55		A-1	*	赤褐色	羽状線(上), 連続刺突	ヨコナデ	ヨコナデ・工具ナデ(ヨコ)			
56		2号土	*	赤褐色	羽状線(上), 連続刺突	ナデ	ナデ・工具ナデ(ヨコ)			
57		A-2	*	赤褐色	羽状線(上), 連続刺突	ナデ	ナデ・工具ナデ(ヨコ)			
第11区	58	B-1	*	赤褐色	羽状線(上), 連続刺突	ナデ	ナデ・工具ナデ(ナナ)			
	59	A-1	*	赤褐色	羽状線(上), 連続刺突	ナデ	ナデ・工具ナデ(ヨコ)			
	60	*	赤褐色	羽状線(上), 連続刺突	工具ナデ(ナナ)	ヨコナデ				
第12区	61	A-1	*	赤褐色	羽状線(上・外), 連続刺突	ナデ・ヘラ1号(ヨコ)	了事(ナナ)			

第4表 野大野A遺跡出土土器観察表(2)

器名	通称	形状	色	文	特	号	内	備	考
62	A-1	平	赤褐色	割取(上・外)	連続割取	ナデ	工具ナデ(30)		細さ不明
63	B-3	*	赤褐色	割取(上)	連続割取	ナデ	工具ナデ		
64	A-1	*	赤褐色	割取(上)	連続割取	ヘラ1号ナデ	不明		
65	A-2	*	赤褐色	割取(上・外)	連続割取	ナデ	工具ナデ(30)		
66	*	*	赤褐色	割取(上)	連続割取	ヨコナデ・工具ナデ	工具ナデ(ナナメ)		
67	*	*	赤褐色	割取(上)	連続割取	ヨコナデ	ヨコナデ		ふきこぼれ痕
68	A-2	流	赤褐色	割取(上・内・外)	連続割取	ナデ	ナデ		
69	*	*	赤褐色	割取(上・内・外)	連続割取	ナデ	ナデ		
70	*	*	赤褐色	割取(上・内・外)	連続割取	ナデ・工具ナデ(30)	ナデ・工具ナデ(30)		ふきこぼれ痕
71	*	*	赤褐色	割取(上・内・外)	連続割取	ナデ	ナデ・工具ナデ(30)		ふきこぼれ痕
72	*	*	赤褐色	割取(上・内・外)	連続割取	工具ナデ(ナナメ)	工具ナデ(ナナメ)		器面に光沢あり
73	*	*	赤褐色	割取(上・内・外)	連続割取	ナデ・工具	ナデ		ふきこぼれ痕
74	*	*	赤褐色	割取(上・内・外)	連続割取	ナデ	ナデ		
75	*	*	赤褐色	割取(上・内・外)	連続割取	ナデ	ナデ		
76	A-2	*	赤褐色	割取(上・内・外)	連続割取	ナデ	不明		
77	B-2	*	赤褐色	割取(上・内・外)	連続割取	ナデ	ナデ		細さ不明
78	*	*	赤褐色	割取(上・内・外)	連続割取	ナデ	ナデ		
79	*	*	赤褐色	割取(上・内・外)	連続割取	ナデ	ナデ		
80	A-1	*	赤褐色	割取(上・内・外)	連続割取	ナデ・工具	ナデ		ふきこぼれ痕
81	B-3	*	赤褐色	割取(上・内・外)	連続割取	ナデ・工具	ナデ・工具(ナナメ)		
82	A-2	*	赤褐色	割取(上・内・外)	連続割取	工具ナデ	ナデ		
83	*	*	赤褐色	割取(上・内・外)	連続割取	ナデ	ナデ		ふきこぼれ痕
84	*	*	赤褐色	割取(上・内・外)	連続割取	ナデ	ナデ		
85	A-1	*	赤褐色	割取(上)	連続割取	ナデ・工具ナデ(ナナメ)・工具	ナデ・工具ナデ(30)・条痕		ふきこぼれ痕、下部無縁部
86	2号土	*	赤褐色	割取(上)		ナデ	ナデ・工具ナデ(30)		ふきこぼれ痕
87	A-2	*	赤褐色	割取(上)	連続割取	ナデ	ナデ		ふきこぼれ痕
88	A-1	*	赤褐色	割取(上)	連続割取	ナデ	ナデ		ふきこぼれ痕
89	A-3	*	赤褐色	割取(上)	連続割取	ナデ	ナデ		
90	*	*	赤褐色	割取(上・外)	連続割取	ナデ	工具ナデ(30)		
91	A-1	*	褐色	割取(上・外)	連続割取	ナデ	ナデ・工具ナデ		
92	A-2	*	赤褐色	割取(上)	連続割取	1号土ナデ	1号土ナデ		ふきこぼれ痕、穿孔有り
93	A-1	*	赤褐色	割取(上・外)	連続割取	ナデ	ナデ・工具ナデ(30)		細さ不明
94	B-2	*	赤褐色	割取(上)	連続割取	ヨコナデ・工具ナデ(ナナメ)	ヨコナデ・条痕(30)		ふきこぼれ痕
95	A-3	*	赤褐色	割取(上)	連続割取	ナデ・工具	ナデ・工具ナデ(30)		
96	A-1,2	*	褐色	割取(上・外)	連続割取	ナデ	ナデ・工具ナデ(30)		ふきこぼれ痕
97	A-12	*	赤褐色	割取(上)	連続割取(2種)	ナデ	ナデ		
98	*	*	赤褐色	割取(上)	連続割取	ナデ	ナデ		
99	平	*	赤褐色	洗脱(2集)	条痕	条痕	条痕 目録?		
100	A-1	*	赤褐色	洗脱	条痕	条痕	条痕 ?		
101	*	*	赤褐色	洗脱	条痕	条痕	条痕 ?		
102	A-3	*	赤褐色			工具ナデ(ナナメ)	工具ナデ(30)		ふきこぼれ痕
103	A-1	*	赤褐色			ナデ	ナデ		ふきこぼれ痕
104	*	*	赤褐色			ヘラ1号ナデ(ナナメ)	ヘラ1号(30)		
105	*	*	赤褐色			ナデ	工具ナデ(30)		
106	A-3	*	赤褐色			ナデ・工具ナデ	ナデ・工具ナデ(ナナメ)		
107	A-2	*	赤褐色			ナデ・工具ナデ(30)	ナデ・工具ナデ(30)		ふきこぼれ痕
108	A-1	*	赤褐色			ナデ・工具(ナナメ)	ナデ		ふきこぼれ痕
109	*	*	赤褐色			ナデ	工具ナデ		
110	A-2	*	赤褐色			ナデ	工具ナデ(30)		ふきこぼれ痕
111	*	*	赤褐色			工具ナデ	工具ナデ(30)		
112	A-1	*	赤褐色			ナデ・工具	工具ナデ		ハヤ目録
113	A-2	*	赤褐色			ナデ	工具ナデ(30)		
114	*	*	赤褐色			ナデ	条痕 ?		
115	*	*	赤褐色			ナデ・工具ナデ(ナナメ)	工具ナデ(30)		
116	*	*	赤褐色			工具ナデ(ナナメ)	工具ナデ(30)		ふきこぼれ痕
117	A-1	*	赤褐色			ナデ	ナデ		ふきこぼれ痕
118	B-3	*	赤褐色			ナデ	ナデ		ふきこぼれ痕、穿孔有り
119	*	*	赤褐色			ちきアゲ	工具ナデ(30)		内面にケズリ痕
120	*	*	赤褐色			ナデ・ヘラナデ			
121	A-1	*	赤褐色			ナデ・工具	ナデ		
122	*	*	褐色			ナデ・工具	ナデ・工具ナデ		

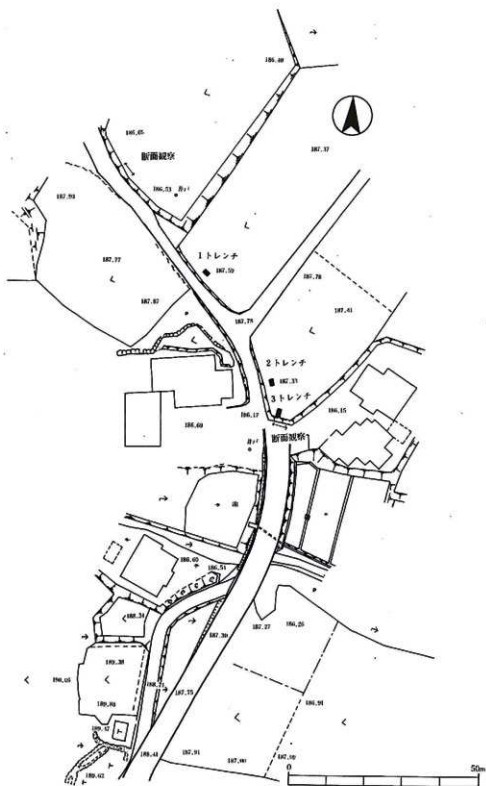
第5表 野大野A遺跡出土土器観察表(3)

図番	通物番号	土器区	形状	色別	文様	種類	外側割型	内側割型	備考
第16図	123	A-2	平	赤褐色		土ナ	ナデ	ナデ	ナデ・工具ナデ
	124	A-1	碓氷細色	斜状斑, 連続斜斑		工具ナデ		工具ナデ(ココ)	
	125	A-2	赤褐色	斜状斑, 四角斜斑		工具ナデ		工具ナデ(ココ)	ふろこぼれ肌
	126	A-1	赤褐色	斜状斑, 連続斜斑		ナデ		工具ナデ(ココ)	

図番	通物番号	土器区	形状	色別	外側割型	内側割型	備考	図番	通物番号	土器区	形状	色別	外側割型	内側割型	備考	
第17図	127	A-2	碓氷細色	ナデ	ナデ	ナデ(ココ)		第20図	182	A-1	碓氷細色	ナデ	ナデ			
	128	*	黒褐色	ナデ	ナデ	工具ナデ(ココ)			183	*	赤褐色	ナデ	ナデ			
	129	B-1	黒褐色	赤斑	赤斑				184	A-1	黒褐色	ナデ	赤斑			
	130	A-1	赤褐色	工具ナデ(ナデ)	赤斑(木目)				185	A-2	碓氷細色	ナデ	赤斑			
第18図	131	B-2	碓氷細色	工具ナデ(ナデ)	赤斑(木目)			第21図	186	A-3	碓氷細色	ナデ	赤斑			
	132	*	黒褐色	工具ナデ(ナデ)	赤斑(ココ)	ふろこぼれ肌			187	A-2	赤褐色	工具ナデ(ナデ)	赤斑			
	133	*	碓氷細色	工具ナデ(ナデ)	赤斑(ココ)				188	A-1	碓氷細色	工具ナデ(ナデ)	赤斑			
	134	A-2	赤褐色	工具ナデ(ナデ)	赤斑(ヘラナデ)	1.5ギキ			189	A-2	碓氷細色	ナデ	不明			
第19図	135	B-2	碓氷細色	工具ナデ(ナデ)	赤斑	ふろこぼれ肌		190	A-1	碓氷細色	工具ナデ	不明				
	136	2分土	碓氷細色	工具ナデ(ナデ)	赤斑(木目)	ふろこぼれ肌		191	*	黒褐色	1.5ギキ工具ナデ	工具ナデ(ココ)	ヘラ1.5ギキ			
	137	A-2	碓氷細色	赤斑	赤斑(木目)			192	*	碓氷細色	ナデ	赤斑				
	138	A-1	碓氷細色	工具ナデ(ナデ)	赤斑	ふろこぼれ肌		193	A-2	碓氷細色	ナデ	赤斑				
第20図	139	A-2	赤褐色	工具ナデ(ナデ)	赤斑(木目)											
	140	B-3	碓氷細色	ナデ	赤斑(木目)											
	141	*	黒褐色	赤斑(木目)	赤斑(木目)											
	142	A-1	碓氷細色	ナデ	ナデ	ふろこぼれ肌										

第6表 石器計測表(1)

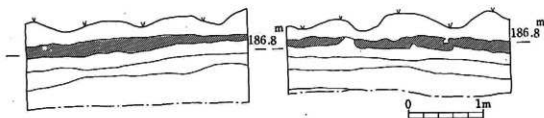
図番	通物番号	土器区	形	種類	材	重量g	備考
第22図	194	A-1	壺	石	砂岩	685	
	195	A-2	壺	石	*	515	
	196	A-1	壺	石	*	195	
	197	A-2	磨石・磨石	石	*	1,135	2次品
第23図	198	*	磨石・磨石	石	*	190	
	199	B-3	磨石・磨石	石	*	251	
	200	A-1	磨石・磨石	石	*	1,940	
	201		磨石・磨石	石	*	945	
第24図	202	B-2	磨石・磨石	石	*	191	
	203	A-3	磨石・磨石	石	*	313	
	204	灰板	磨石・磨石・四石	石	*	260	
	205	A-1	磨石・磨石・四石	石	*	200	
第25図	206	A-3	磨石・磨石・四石	石	*	327	
	207	B-2	磨石・磨石・四石	石	*	310	
	208	A-2	磨石・磨石・四石	石	*	220	
	209	1号土	磨石・磨石	石	*	202	
第26図	210	A-3	磨石・四石	石	*	258	
	211	A-3	磨石・四石	石	*	325	
	212	A-2	磨石・四石	石	*	288	
	213	A-1	磨石・磨石・四石	石	*	251	
第27図	214	1号土	石	炭	*	147	
	215	B-2	石	炭	*	905	
	216	A-1	石	炭	炭削片	935	
	217	B-2	石	炭	砂岩	848	
第28図	218	1号土	石	炭	*	2,640	
	219	A-1	石	炭	*	803	
	220	1号土	石	炭	*	6,850	炭が2本
	221	*	石	炭	*	4,200	
第29図	222	*	石	炭	*	4,720	
	223	*	不明	不明	*	4,310	



第27図 上瀬田A遺跡トレンチ配置図

第 4 章 上瀬田 A 遺跡の調査

上瀬田 A 遺跡では、 2×3 m のトレンチを 2ヶ所設定し、現道の下の土層堆積状況の観察できる調査域の南北で 2ヶ所の断面を削り、調査を行った。第 28 図のトレンチの土層断面でわかるように、表土の下には、アカホヤの火砕流堆積物（1次）があり、縄文時代前期までの包含層は削平されていることが分かった。現在畑地として利用されており、その表土の観察においても、アカホヤ火山灰が混入していた。周辺を踏査してみると、土器片が僅かに散布しており、遺跡地であったことは伺える。分布調査で土器片が採集された南側の断面から、アカホヤ層の上の黒色土層が残っており、清掃中に土器片を採集した。アカホヤ層の上の黒色土層が包含層と判断できた。断面に観察された包含層を遡って調査するため、長さ 3.5 m ほどのトレンチを設定し掘り下げたが（3 トレンチ）、包含層は北に向かって上がっていき、長さ 3 m ほど残るのみで、遺物は出土しなかった。アカホヤ層下の縄文時代早期相当の層からも遺物は出土せず、一部では礫層がこれに変わって堆積していた。もともとは黒色土層があったものが削平されたものであろう。



第 28 図 上瀬田 A 遺跡 1 トレンチ・2 トレンチ土層断面図

- I. 表土
- II. アカホヤ火砕流堆積物 軽石を含む
- III. 褐色粘質土層 縄文時代早期相当層
- IV. 暗褐色粘質土層
- V. 褐色粘質土層
- VI. 礫層 剥離しやすい、角のとれた岩・礫層

第5章 まとめ

上瀬田A遺跡については、土器片等の散布は見られたものの、包含層と考えられるアカホヤ層上位の黒色土層は削平され、またアカホヤ層下位についても遺物・遺構とも検出されなかった。

野大野A遺跡については、縄文時代後期後半に位置付けられている一湊式土器の単純遺跡である。一湊式土器は屋久島の一湊遺跡で出土した土器を標識として設定された型式であるが、屋久島の一湊遺跡はもとより、縄文時代後期の市来式土器と出土することが多く、一湊式の単純遺跡としては初めての遺跡である。分布域も屋久島を中心に島嶼的土器として認識されているこの型式の単純遺跡が、地理的には近い種子島にあったことも、新しい知見である。遺構は石皿・磨石を集積した土壇が検出された。石皿・磨石のほとんどが加熱され、赤変している。^(註1) 図化していない石も、形態的に石皿であった可能性が高い。土壇の床面・壁面ともに加熱された痕跡はなく、埋土についても焼土は見られなかった。同じ埋土をもつPitが周辺に検出され、上屋があったものと考えられる。単に破棄したものか、地鎮のための埋納など呪術的な性格のものか、実用的に使用されたものか、性格は資料の増加を待ちたい。遺物は土器の他は、磨石・敲石・凹石・石皿が出土し、石鏃など狩猟具は出土しなかった。

一湊式の編年の位置については、若干の議論がなされて来た。一湊式を含めて薩南・奄美諸島の土器編年は、バイオニア的存在である河口貞徳、近年ここをフィールドに調査活動を精力的に行っている熊本大学、県文化課・熊本大学などの発掘調査の成果を総合的に把握しようとしている上村俊雄の3者によってなされて来ていると言える。一湊式については、河口は市来式との関係から認識したもので、その編年の位置も市来式の新しい時期(市来Ⅱ・Ⅲ式)に伴うものと考えている。熊本大学はタチバナ遺跡の発掘成果などをもとにして縄文時代晩期に位置付ける^⑨。上村は一湊式土器の出土した遺跡の比較・検討から、一湊式に後期に入るものと晩期に下がるものがあると判断し一湊式の細分を提起し、時期を縄文時代後期から晩期へ年代幅を持たせた。一湊式土器が出土した各遺跡についての検討は別の機会に譲りたいが、一湊遺跡の出土した遺跡についての3者の認識にも多少のずれがあり、かつ共存遺物についても評価が別れる。一湊式土器だけでなく、喜念Ⅰ式・宇宿上層式・黒川式などの他の土器型式の認識ともかかわってくる。その中で、特に2つ触れておきたい。ひとつはタチバナ遺跡について、ひとつは一湊式の細分についてである。

タチバナ遺跡の発掘については検討できる資料が不足しているが、「一湊式は、大型のカメ、黒川式は深鉢と浅鉢と器種別に組み合わせる形で共存していた。したがって多くの土器型式も実際には奄美系、種子・屋久系、九州系と器種を異としながら一遺跡内に相互補完的にみられることが本来の姿であるように思われる。」^⑩と考えるのではなく、まず先に2時期か3時期にわたって形成された遺跡と判断しての吟味の上で、離島という地理的条件を考え合わせた方が、方法論的手順であろう。土器の出土状況などの資料の提示とその判断に至った説明が十分なさ

れなければ、土器の型式論から首肯できる内容ではない。また、上村は一濤式を後期に入ものを一濤Ⅰ・Ⅱ式に晩期に入ものをタチバナ式(Ⅲ式)一仮称—に細分することを提案した。一濤Ⅰ・Ⅱ式については、Ⅰ式・Ⅱ式の設定された土器についての概念は述べられているが、タチバナ式については、共存遺物によってのみ設定しているように受け取れた。土器型式を細分する場合にも、土器の概念化がまず必要ではなかろうか。時期の設定から型式を分けていくように思われ、手順が逆であろう。

本遺跡出土の土器については、ほとんどが上村の一濤Ⅱ式にあたる。しかし貝殻を施文・調整にまったく使用してなく、他遺跡出土の一濤式土器との検討が必要であろう。土器の説明の中では、文様の違いによってa類・b類・c類に分類したが、型式学的にはa類→b類・c類という流れが一応考えられる。上村のⅠ式→Ⅱ式→Ⅲ式の流れの中では、Ⅱ式からⅢ式に移行する型式的特徴を有している。また無文の土器も出土しておりいずれも口径が小さいことから、一濤式に伴う器種として判断して良いと考える。これらは、口縁形態・器形からなお分類も可能であるが、個体数が少なく一般化できなかった。2号土塚から平口縁と波状口縁の土器が重なって出土しており、同時期に存在したことを示している。また両者ともに、ふきこぼれ痕と思われる炭化物を付着しており、煮沸用に使用されたこともうかがわれる。

従来不明な点が多かった一濤式土器の様相が、すべてではないが野大野A遺跡の発掘によって調整・器形など明らかになった。これは単に薩南諸島にとどまらず、南島の土器編年を考えるうえでも大きな成果であった。

(注1) 一濤式を出土する遺跡は、種子島に多かったが、市来式土器が主体の遺跡で出土することが多く、一濤遺跡以外には一濤式を主体とする遺跡はなかったという意味である。

(注2) 1981 出口浩・繁昌正幸「一濤松山遺跡」上原久町埋蔵文化財発掘調査報告書によると、「一濤式と市来式土器の関係は、一濤遺跡で両者が共存したことにより、一濤式の編年上の位置が決まったことから重要である。この市来式は草野貝塚上層の市来式に相当すると考えられ、市来式でも後半に当たるといわれる。(中略)今回出土の一濤式は、上層(1967 国分・盛園・重久らの調査の時の)出土のものに当たり(第1類A~E)下層にあたるものはひじょうに少ない。(第1類F)すなわち一濤式でも新しい形態のものを主体としている。これらと同層に出土するのが、入佐式・黒川式・喜念Ⅰ式であるのは興味深い。(略)なお一濤式で下層出土にあたるものは、外面の文様帯が幅広く、かつ器壁が厚く、粗製で、断面形態5に類似しており、市来式最終段階の時期と思われる。草野貝塚上層出土の市来式に該当する。」として、一濤式の2分類と市来式と共存するものと入佐式・黒川式などと共存するものがあることに触れている。〈 〉は執筆者挿入

一参考・引用文献一

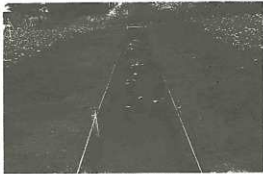
- ① 1979・1980 「タチバナ遺跡」熊本大学研究活動報告4・7
- ② 1981 出口浩・繁昌正幸「一濤松山遺跡」上原久町埋蔵文化財発掘調査報告書
- ③ 1982 甲元真之「トカラ列島の文化」『縄文文化の研究 6』
- ④ 1986 上村俊雄「一濤式土器の編年の位置について」『南島考古No. 10』
- ⑤ 1988 河口貞徳「日本の古代遺跡38 鹿児島」

凶

版



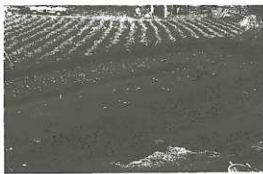
野大野A遺跡1トレンチ



1トレンチ遺物出土状況



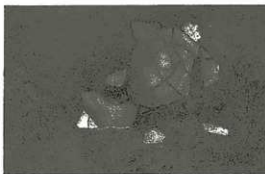
表土剥ぎ



遺物出土状況



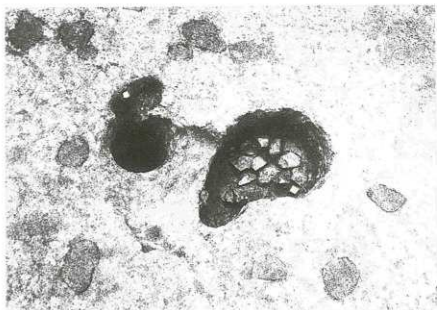
発掘作業風景



2号土壇遺物出土状況



2号土壇断面



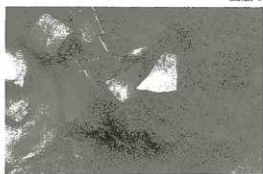
野大野A遺跡1号土坑集石及び土坑



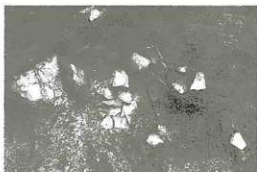
1号土坑掘り上がり



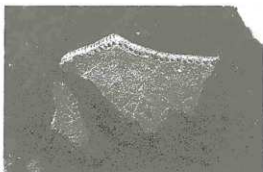
野大野 A 遺跡 1 号土坑埋土状況



遺物出土状況



遺物出土状況



遺物出土状況



土層堆積状況



出土土器 (1~11)



出土土器 (12~24)



出土土器 (25~39)

图版 4



(40~49 · 54~57)



50 · 52



51



53



(58~65)



(66~80)



(81~84 · 87~91)



85



86



(92~104)



(105~110)



(111~120)



(121~126)



127



(128~134)



(135~143)



(144~151)



(152~158)



(159~165)



(166~172)



173 · 174



173 · 174 裏



(175~181)



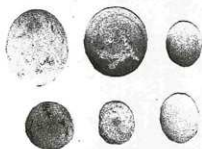
(182~188)



(189~193)



194~199



200~205



206~211



212~216



217



218



219



220



221



222



223



a類

b類



c類



2



3



17

33



34 内面調整例



144



148



152



162(外)



162(内)

野大野A遺跡出土土器・文様分類例・内面調整例

図版10



上潮田A遺跡1トレンチ



3トレンチ発掘風景



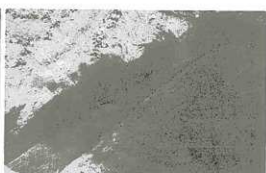
土層断面観察(北)



礫層



南側包含層残存状況



3トレンチ



1トレンチ土層



2トレンチ土層

あ と が き

初夏の強い日差しの中で、大粒の汗をかきながらの調査でした。そんな中で種子島らしい潮の匂いを含んだ涼風の吹くひとときは救いでした。暑い中で、遺物の出土に喜々としながら発掘調査に携わって載った作業員の皆様、どうもありがとうございました。また調査地は買収されていたとはいえ、畑を通らねば行けず、それを寛容にかつ諸道具の置き場や飲み水などを提供して下さった加納さんに特に感謝申し上げます。短い期間の調査でしたが、遺物量が多く、その成果も大きいものでした。郷土の歴史をひもとく、小さくても貴重な手がかりが、こんなに身近にあったことを感じて戴けたとすれば、調査員として満足です。

発掘作業員

日高カズ子・石寺仙江・石窪ヒロ子・近藤和子・河口ひろみ・東留子・谷山スエ・日高岩子
御手洗ミエ・新村ミカ・愛キミ・山田キヨ子・岩坪則子・大脇クエ・中國悦子・加納清二
徳永次則・河野哲夫・砂森末夫・立石伸幸

整理作業員

浜田幸江・竹下マリ子・春山まり子

野大野 A 遺跡

うわせだ
上瀬田 A 遺跡

平成 3 年 3 月

発行 南種子町教育委員会

鹿児島県熊毛郡南種子町中之上

印刷所 中央印刷株式会社

鹿児島市春日町 12 番 16 号

☎0992-47-3300

